

## 仏の顔も三度

加藤 享

### [聖書]マタイによる福音書18章21～35節

そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした。決済し始めたところ、一万タラントン借金している家来が、王の前に連れて来られた。しかし、返済できなかったので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』としきりに願った。その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。しかし、承知せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君の前に出て事件を残らず告げた。そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不屈きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」

### [序] 何回まで赦せばよいか

主イエスは12人を特に選んで、内弟子として教育訓練なさいました。その一人一人を深く愛されたとしても、12人に対して平等に対応されたのではありませんでした。四つの福音書の記事を読んで先ず気付くことは、ペトロが一番目立つ存在だったということです。先週の学びにしても、嵐で漕ぎ悩む弟子たちを助けようとして、主が湖の上を歩いて近づいてこられた時、ペトロは「あなたでしたら、水の上を歩いてそちらに行かせて下さい」と叫んで、波の上を歩き始めています。このようなペトロの直情径行の性格が、救い主イエスの恵み豊かなお姿を、より鮮明に現してくれています。

そのペトロが今日は「兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか」と主に質問しています。兄弟とは弟子たち仲間のことでしょうか。としますと12人の内弟子仲間の間でも、争いが起きていたのですね。マタイ18章の1節をご覧ください。弟子たちが「いったい誰が、天国でいちばん偉いのでしょうか」と質問しています。平行記事のマルコ9章33節以下では、彼らが主の後に従って旅をしていた道中でも、その議論をしていたとあります。12使徒といはいえ、この席次争いは最後の晩餐まで続いています。主イエスを中心に一体となって伝道している集団ですのに、矢張り男の集団なのですね。

私たちは人間です。人の間で生を営んでいる私たちです。家族、学校仲間、仕事仲間、趣味やサークルの仲間、ボランティア仲間等の交わりの中で暮しています。親しい間になれば、相手にこうしてもらいたいという期待も生れてきます。そしてその期待が満たされないと相手に対して不満が生じ、争いになります。主の内弟子仲間でも争いという罪が生じました。そこでペトロは「私に対して罪を犯す仲間を、何回ま

で赦せばよいのでしょうか」と主に質問したのでしょうか。

日本では、「**仏の顔も三度**」という諺があります。「仏さまのように慈悲深い方でも三度侮辱されたら、腹を立てるぞ」という警告です。ユダヤ人の間にも、同じような教えがありました。そこでペトロは3度の倍プラス1で、七回と奮発して質問したのでしょうか。しかし主イエスの答は「**7の70倍までも赦しなさい**」でした。ここに込められた**福音**を聞きとりたいものです。

## [1] 不思議なたとえ

主イエスは、ある王に対して**1万タラントンの借金**を負っている家来の話をなさいました。当時の労働者一日の賃金が**1デナリオン**で、その6000デナリオンが**1タラントン**ですから、1万タラントンとは**6000万日分の給料**に相当する金額です。天文学的な数字ですね。

私はここで、**変なたとえ話**だなと思いました。それほどの膨大な借金を、この家来はどうして必要としたのでしょうか。またその様な金をこの王は、何処から工面して貸したのでしょうか。或る説によると領主のヘロデ王ですら、1年の王国収入が**500タラントン**だったそうです。ですからこの借金の話は、全くあり得ない**非現実的な話**です。

それにこの家来は、自分も妻も子も、また持ち物全部売って返済せよと命じられると、ひれ伏して、『どうか待ってください。きっと**全部お返しします**』としきりに願っています。そんなこと出来はしないではないですか。だから、私だったら一家で**国外逃亡**していたでしょう。では主イエスは どうして、この様な非現実的なたとえ話をされたのでしょうか。皆さんはどの様にお感じになりましたか？

そこで私は、この王というのは、**神**を指していると受け取りました。そして家来の主君、即ち**神**がこの家来を「**憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった**」と読みました。**憐れに思って**と言う語は、「**腸のちぎれる思い**」を現わします。神はどんなに莫大な借金でも、必死になってお願いすると、**御心を強く痛めて赦して**くださる、**憐れみ深い愛の神**であられると、主はおっしゃったのです。

ところがその家来は、帰り道で自分に100デナリオンの借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『**借金を返せ**』と迫りました。仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼みました。しかし彼は仲間を借金を返すまで、**牢に入れて**しまいました。事の次第を知った国王は、その家来を呼びつけて言いました。『**不届きな家来だ。お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか**』。そして借金をすっかり返済するまでと、牢に入れてしまいました。誰も1万タラントンの大金を助けてくれる人などいませんから、彼は**生涯を牢屋で過ごす身**になったのです。

## [2] 罪の自覚と赦しの感謝

このたとえのポイントは、**神に対する莫大な借金**と、**神の大きな憐れみ**です。自分に対する100デナリオンの借金、それでも**100日分の賃金**に相当する額ですから、庶民にとっては大金です。返さないのは不届きだと怒ったとしてもそれは当然でしょう。しかし自分が国王から赦してもらった1万タラントンに比べれば、60万分の1のお金なのです。どうして許せずに牢屋に入れたのでしょうか。自分が赦されたことに対する感

謝が全くなかったからにほかなりません。他の仲間が心を痛め、国王が激しく怒ったのは当然です。

そこで私はハッと気付かされたのです。私はもうすぐ85才になります。生まれて以来、犯して来た罪の数々、自覚しないで人の心を傷つけ、苦しめた罪は、数えきれない量になるでしょう。1万タラントンどころではありません。しかし神は私を、腸のちぎれるほどに深く憐れんでくださり、御子イエス・キリストを十字架にかけ、私の身代わりに罪の裁きを引き受けて下さった。そしてこの私を、神の赦しを頂く身にして下さったのです。

もしもこの家来が、神の大きな憐れみをしっかりと自覚したならば、自分に対する100デナリオンの借金は当然、赦せたはずです。感謝がなかったから赦せなかったのです。それは自分の罪深さの大きさを自覚しなかったからにほかなりません。神に対する自分の大きな罪の自覚。その罪を赦されている感謝。それが仲間の罪を赦すことと結び付いているのですね。仲間同士の罪の赦し合い——それは各自が、自分の罪の自覚と表裏一体なのです。

### 【結】 赦されている罪に感謝して

私たちの信仰は、聖書を読むことによって与えられ、聖書の言葉によって養われていきます。私は30才の3月に神学校を卒業して、目白ヶ丘教会の副牧師になりました。ですから牧師生活54年になりました。毎週の礼拝、祈祷会、その他の集会で御言葉のお取次ぎをさせていただいて来ました。ですから聖書を読まずには過ごせない毎日を過してきました。それでも聖書を読み尽くしたという思いは全くありません。その時、その時で、それまで気付かなかった意味を示されて、驚きと感動を覚えることがしばしばです。

今日のこの箇所も、主イエスのたとえで、1万タラントンという全く非現実的な数字に違和感を覚えて繰り返し読んでいくうちに、神に赦されている自分の罪の大きさに気付かされました。そして主イエスの十字架の苦しみと私に対する深い憐れみを新たにして、感謝がこみあげてきました。そして「あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」という最後の言葉が、ストンと心の底に納まったのです。

今日はこれから、主の晩餐式を守ります。「これはあなた方のためのわたしの体である。」「この杯は、わたしの血による新しい契約である」。自分がこんなに主なる神からの憐れみにより、罪の一切を赦されているのだという感謝を新たにいたしましょう。そしてどんな罪をも赦し合って、主を賛美しつつ、一か月を過して参りましょう。

祈ります：主よ、今日もみ言葉を学ぶことが出来たことを感謝します。私の大きな罪深さを憐れみ、赦して下さる十字架の恵みを、心から感謝いたします。この私も、どんな罪をも赦す者にして下さい。愛と喜びと感謝に満ちた日々を送る者にして下さい。殺し合う争いを治めて下さい。平和をお与え下さい。イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン